

高まる 命の安心感

地域にも意識浸透

心肺蘇生法を学んでいるのは学校だけではありません。久慈消防本部は、町内会や事業所などの依頼に応じて、地域に足を運び、心肺蘇生法の講習会を開いています。その数、年間約100件。平成21年は、計1517人が受講しました。本年度も多くの団体から依頼が届いています。命を救う意識は、地域にも浸透してきています。

高まる蘇生実施率

心肺蘇生法の普及の成果は、現場に表れてきました。平成21年の久慈管内の救急件数は1612件で、そのうち心肺停止状態の患者は80人。現場に居合わせた人が、救急

久慈管内・現場での心肺蘇生法実施状況

年	心肺停止した患者	現場の蘇生実施率	1カ月生存した患者
17年	67人	44.8%	3人
18年	72人	30.6%	0人
19年	68人	50.0%	4人
20年	86人	50.0%	7人
21年	80人	55.0%	1人

車の到着前に患者に心肺蘇生法を実施した割合は55%でした。(右表)救急患者の症状にもよりますが、現場の処置によって助かった患者も実際にいます。これは、命を救う意識と力が、多くの人に備わってきた証しです。

家族や友人、そして自身身が倒れたとき、周りに心肺蘇生法をできる人がいたら、これだけ心強いことはありません。命の安心感が少しずつ高まっています。

地域に広がる意識

講習会への講師派遣については、久慈消防本部(☎53-0119)にご相談ください。



7月10日、北野公民館で受講

菅原由美子さん(侍浜町・左)
桑田ふみえさん(侍浜町・右)

人を助けるためと思うと自然に一生懸命に。知っている人が多いほど、安心できるまちになると思います。



7月10日、湊ふれあい館で受講

小向 孝さん(湊町・左)
久住徳良さん(湊町・右)

今回で手順が分かりました。知るの大事。知れば人にも教えられます。積極的に毎年、受けたいですね。

守るほ、ぼく

一本松凌哉くん(宇部小5年)は家族7人暮らし。お父さんの正彦さんと、おじいちゃん、お母さんの東野実さんは、関東方面に出稼ぎに出ています。普段、家族の中の男手は、凌哉くん一人です。

「力仕事や雪かきも得意。頼りになるんですよ」と、お母さんの光子さんと、おばあちゃんのお東野幸子さん。

「普段から家族思いの優しい子です」と、ひいおばあちゃん、川端シヅさん。

そして、ニコニコとよく笑う妹の心愛ちゃんも、凌哉くんのことが大好きです。

7月7日、凌哉くんは学校でAEDと心肺蘇生法を初めて教わりました。いざというとき大切な人を助ける方法を、友達と一緒に一生懸命練習しました。

「ぼくが助けられているとき、具合が悪くなった妹が救急車に運ばれたことがあります。お父さん、おじいちゃんがいなくて、みんなを守るのには、ぼくももっとしっかりしたいと思いました。今度、誰かが

倒れたときは、勉強したことを生かして助けてあげたいです。遼哉くんは、はつきりとしたええ声です。

「何だか少し頼もしくなったみたいね」。光子さん、幸子さん、シヅさんは、うれしそうにほほ笑みましました。

救える力がある

大切な人が倒れたとき、見ているだけでは助けられないことを、凌哉くんや子どもたちは知っています。助かる可能性が高くなる方法も、凌哉くんや子どもたちは知っています。

大切な人の命を救うには、そばにいてあなたの行動が必要。その場に直面したとき多くの人が動転し、「怖い」と思うこと。しかし、勇気を持って行動すれば、救える命があるのです。

方法がある。AEDがある。わたしたちには命を救う力がある。大切な命。みんなの力で守っていきましょう。

「ぼくが助けてあげるからね」



凌哉くんは家族みんなのことが大好き。仲の良さが表情に表れます。左から東野幸子さん、一本松凌哉くん、川端シヅさん、一本松光子さん、一本松心愛ちゃん

平成19年9月14日、大野パークゴルフ場でプレー中に心肺停止状態になった男性を、周囲と協力して救った。

「助けてい」 気持ちが行動に



協力して命を救った
羽行公也さん
(畑田)

倒れた男性の硬直した体と、周囲の状況を見て「自分がやるしかない」と思い、無我夢中で人工呼吸と心臓マッサージをやり続けました。経験はありませんでしたが「助けてい」という気持ちで、とっさの行動につ

ながったのだと思います。みんなで命を助けるため、心肺蘇生法の知識を広めることは大事だと思います。誰かが倒れたときは、勇気を持って行動を。大変なとき、お互いに助け合っていければいいですね。

入浴中に意識を失いました。気がついたときは病院のベッドの上です。お医者さんからは「あと少しでも処置が遅かったら危なかった」と言われました。偶然その場に居合わせた方たちの、すばやい処置の

おかげで助けられました。わたしは本当に恵まれていたと思います。家族と一緒に本当に感謝しています。あれから2年以上たちますが、助けてくれた方たちへの感謝の気持ちを忘れたことはありません。



命を救われた
普代村70代男性
※本人の希望により匿名で掲載

平成20年3月31日、べっぴんの湯で入浴中に心肺停止状態に。周囲の懸命の処置によって一命をとりとめた。

すばやい処置に 家族と感謝